

松陵

能代高等学校同窓会
事務局
能代高等学校内
能代市高埦2-1
TEL 0185-54-2230
題字は神馬前会長



同窓会会長

田中仁純

(第二十五期)

「同窓会会員の皆様へ」

「松陵」一〇号が皆様のお手元に届く頃は冬本番の季節と思います。皆様はお元気で過ごさしのこと、お慶び申し上げます。去る十月の総会におきまして、神馬恒成会長のご勇退の後を受け、新役員共々伝統ある能代高校同窓会の運営にあたることになりました。栄光を汚すことなく、鋭意努力する所存でありますのでよろしくお願い致します。

さて、わが母校は同窓生の秋元校長を始め諸先生の努力により、勉学では大学入試センター試験において、近年にない高い水準にあるとのこと、これからの進学に大いに期待がもてるものと確信しており、またスポーツではインターハイに山岳部・柔道部・体操部がそろって出場、特に山岳部は初出場ながら見事三位入賞という快挙、母校の歴史に新しい一頁を飾りました。

先輩はじめ多くの同窓生が築いてきた「文武両道」の精神は着実に樽子山から引き継がれた高埦の地に深く根を張っていることに誇りを感じずにはいられません。

また、七月には二十二年間の参議院議員として活躍されました佐々木満先輩(十五期)が後進に道をゆずり、惜しまれながらの引退でありました。その潔さですが、松陵健児の意気なみせ、胸をうたれる思いでありましたが、山崎五郎先輩(三期)から続いた同窓生による国政の座を失うことには一抹の淋しさを禁じ得ません。雲霞のごとき人材を有する能代高校同窓からは非国政への挑戦者が出現することが待望されます。

「松陵」が神馬恒成前会長からスタートし、それに伴う同窓会費の納入も各支部から、そして全国の会員からよせられ年を追うことに順調に推移しており、誠に嬉ばしい限りであります。

ご承知のように、その会費が母校への活動支援となっており、教育環境のさらなる充実に寄与しているわけであります。皆様一人ひとりの善意が母校生徒の奮起を促し、それがやがて同窓会発展の礎をさらに強固なものにすることに温かいご理解を賜りますようよろしくお願い致します。

最後になりましたが、同窓生皆様のご健康とさらなるご発展を心より祈念しご挨拶と致します。



学校長 秋元正英 (第二十七期)

渡し守の願い

この頃、つくづく思うことは、学校の教師というものは人生の渡し守だということである。学校というこちらの岸から社会・大学という彼岸まで、学校という舟に乗せて、無事に子供たちを渡してやらねばならぬからだ。

或る日の午後、子供たちを渡し終えたのか、岸辺に腰をおろして一服している初老の渡し守の姿が見える。もし人あつて近づけば彼の独り言を聞くことができるだろう。

「……わしも今年で三十八年この川を往復してきたが、今までに渡した子供たちの数は一体どれくらいになるだろうか。穏やかな浪静かな日もあったが、風雨が激しくずいぶん心配したときもあった。いたずらが過ぎて叱りどばした子もいたし、危うく川に落ち込むところを引っ張り……」

「……オーイ、みんな元気でナ、みんな頑張るんだゾ、みんなしあわせにナ、サイナラ、サイナラ、……」

**平成10年度能代高校同窓会
新年会のご案内**

◆日時
平成11年1月30日(土)
午後5時(受付4時半より)
◎午後5時～講演会
・演題
「最近の社会情勢と
大学環境」
・講師
五十嵐靖彦氏(第30期)
弘前大学教授
◎午後6時～懇親会

◆会場
ブラザ都(能代市柳町)
電話(0185)54-2244

◆会費
4,000円(当日持参)
*今回の当番幹事は、28期(新10)と38期(新20)です。
*参加申し込みは下記へご連絡下さい。

能代高校同窓会事務局
(能代高校内)
電話(0185)54-2230

神馬会長 べー苦勞様でした。

〈神馬恒成前同窓会会長を訪問し、インタビューの形でご退任にあたってのお話をいただきました。〉

—同窓会会長をお務めになった期間はどのくらいになりますか。

神馬 六期、十二年間。同窓生としては二代目の会長となります。昭和六十二年、母校では加賀校長の時からと記憶しています。

—まだまだお元氣そのもので、同窓生の中にはこの度のご退任を惜しむ声も多く聞かれますが……

神馬 ハハハ……いやいや、体調が最大の理由ですよ。主要な行事にも出席できなくなつてネ。会長の椅子に名前だけ座っているのは申し訳ない。例えば卒業式に出て、同窓会

長として一言励ましてやるくらいでないとな……

—ところでこの十二年間、随分大きな事業をやつて来られましたね。どんなことが思いに残っておりますか。

神馬 そうねエ、ざっと思い出し、土床体育

館の建設、硬式・軟式両野球部の甲子園・明石同時出場、学校の前庭整備、それに母校の創立七十周年記念……、あと同窓会費を徴収するシステムをつくつたこと。これで財政基盤がしっかりしたものになったと思う。

マア、私の業績というよりは、役員や会員の皆さん、各支部のご協力の賜物ですよ。よく協力してくださつたおかげで、こういう大きな事業を、しかも成功裡に成し遂げることができたと思つております。

—そのせいか近年、同窓会活動も次第に盛り上がつて来ています。

神馬 ウン、嬉しいことですよね。同窓会費の納入状況も良いようだし、これはバロメーターですからね。各支部にはかつて同窓会旗を送つたんだが、活発なようですね。最近は新しく支部をつくる動きもあるようだし……。今後は若い人達に働きかけて会をもっと活発化してもらいたい。期待しております。

—同窓会の発展は、母校にとつても心強い限りです。

神馬 そんなんですね。同窓会というのは母校の太い柱になるべきだと思うんですよ。先生もPTAも年と共に交替していきますけど、同窓会は変わらない。単なる寄付団体としての同窓会ではなく、様々な事業を学校やPT

Aと協力してやっていく。地域では多くの同窓生が責任ある立場で活躍しています。学校として何かやるにしても必ずその方々とかかわることになる。同窓会と学校がつながりを強くすることは地域にとつても大切だと思いますね。

—では最後に新役員や会員の皆さんに一言お願いします。

神馬 至らない会長だったが、皆さんには本当に良くご協力をいただいたと、心から感謝しております。改めて厚く御礼申し上げます。と思います。ありがとうございました。

やり残した課題として、同窓会館を兼ねた学習センターの建設があります。他校でも大体百周年を期して建てているようですね。こちらもその辺を目的にやつたらいいと思うが、今から準備を進めていってもよいと思います。

—本日はありがとうございました。お元氣で、これからも指導をよろしく願っています。

神馬 いやいや、こちらこそありがとうございました。



長として一言励ましてやるくらいでないとな……

—ところでこの十二年間、随分大きな事業をやつて来られましたね。どんなことが思いに残っておりますか。

神馬 そうねエ、ざっと思い出し、土床体育



花下前副会長
(第12期)



大塚前副会長
(第10期)

神馬前会長と共に平成9年度をもって退任された、大塚・花下副会長。長い間本当にご苦勞様でした。

支部 だより

能代高校東京同窓会

「平成十年の東京同窓会の活動について」

八 柳 昭 義 (第二十六期)



現在会員数は總會の案内送付数が一四八〇名、十年の総会は十月二日に開催、会員九五名、新卒者二五名、招待者二五名、合計一四五名が出席し、あきたこまち新米や郷土の物産品が当たる抽選などがあり、盛会のうちに無事終了しました。總會には能代北、工業、商業、西の市内各校東京同窓会と大館鳳鳴、鷹巣農林高を招待し、また各高の總會に招待されてお互いに交流し親睦を深めています。その他秋田県在京高校同窓会連合会(秋高連)があり県内の四五校が参加しており、總會は二七〇名程が出席し交流しています。

北海道支部

「今こそ同窓の一致団結を」

佐藤 満 徳 (第三十期)



十月の総会は母校から小玉教頭、佐藤監査役他成田在札能代山本会長(能代工業卒)を来賓にお迎えし少数精鋭主義で植物園前のホテルで盛大に開かれました。六月に前支部長で秋田県人会長をされた旧制四期畑江道俊さんが急逝されたことは大変悲しいことでした。二次会は、きりたんぼ田村へ直行。スポンサーは道内でも多額納税者で帯広在住の眼科医原田さん(三十八期)でした。世の中未曾有の不況ですが、こんな時期こそ松陵健児団結し難局を切り抜けようではありませんか。

秋 田 支 部

「平成十年度 秋田支部総会」

伊 勢 正 克 (第十七期)



さる十月五日彌高会館で、会員六六名出席で支部総会を開きました。来賓として、田中同窓会長、秋元学校長、高橋先生、成田先生(山岳顧問)をお迎えし、母校の近況をお聞きしました。山岳部は全県大会準優勝、インターハイ縦走第三位の立派な成績で、支部として金一封を贈呈しました。又秋元校長外三名の方が文芸春秋一二月号

のグラビア、同級生交歓に記載されることが紹介されました。佐々木満先生より引退のご挨拶がありました。長い間ご苦勞様でした。母校の益々の発展をお祈りしております。

県庁能高会

「女性会員が急増中の県庁能高会」

佐藤 徹 (第五十一期)



会員数二八五人を数える県庁能高会。今年度は総会を、佐々木満先生に感謝する会に併せて十月六日に開催しました。

例年にも増して出席者が多く、校歌、応援歌、エールと最後まで佐々木満先生と一緒に盛り上がりました。

最近、女性会員が増加し六十四期の場合会員十人のうち六人が女性です。いずれ多くの女性会員の出席により総会が開催される日も遠くないようです。

能代市役所能高会

「十年度定期総会開催される」

安岡 義 則 (第二十七期)

壇上にいる初々しくも頼もしく、そして

一人ひとりが個性あふれるユニークな自己紹介をする新会員である十二名の若者に、あちこちから当を得た掛声が飛び交い楽しい雰囲気の中で懇親会が行われている。平成十年七月二十四日当会の顧問である宮腰市長、相沢収入役、石井監査委員の出席をいただき盛大に開催されている市役所能高会のひとこまである。

会員数二五九名、総会では前年度決算、会員の教養資質向上をねらいに新たな事業として著名人による講演会開催費などを計上した十年度予算が承認されました。

その後の懇親会では、前記のとおり先輩後輩の粹、庁内の部課の垣根が取りはずされ、本当に和やかで楽しいひとときを過ごしました。

当会では、会員への慶弔などの事業のほか、母校への熱き思いから各種の賛助・協力支援にも積極的に取組みしております。

今後とも母校のさらなる発展と会員のさらなる親和を願って、会の運営に努めてまいりたいと思っております。

八 森 支 部

「はちもりの現況」

吉 田 節 朗 (第十五期)

これまでは、佐々木満氏(前参議院議員)

の後援活動で集まりを持つのが精一杯で、支部とは名ばかりでした。初代豊田一郎氏(旧三期)次は山本万悦氏(旧九期)で、その山本さんも昨年亡くなられました。母校から選手派遣等の寄付要請があれば、諸連絡は取っていますが、暫く会合も持っていません。町内には、旧制十七人・新制九十余人・定時制六人の同窓生が夫々に活躍をしているので、新支部長を立てて、母校や地域発展のため、がんばって参りたいと思っております。

藤 里 支 部

「決意を新たに!」

石 田 洋 三 (第二十七期)

当支部総会は一月三十一日六時から、昨年同様ホテルゆとりあで三十名の出席で盛大に開かれました。近年の厳しい不況の中で、今こそ松陵健児の意気を示し、不況を乗り切ることを誓い合った総会でもありました。支部会員相互の情報交換の場として支部の役割を痛感しております。

現在は正、準会員数も百二十名を数えております。白神山地の自然豊かな古里で生活できる喜びをかみしめながら、母校の発展と会員の親和を誓い、決意を新たに運営に努めてまいります。

わが校の応援歌の出自について

昭和三十五年卒(三十期) 工 藤 茂 宣



筆者略歴

昭和三十五年能代高校卒
昭和四十一年弘前大学医学部卒
昭和四十六年弘前大学大学院医学研究科修了
昭和五十五年工藤泌尿器科医院開設
「能代寮歌を受する会」幹事

本「松陵」第九号に、秋元校長が本校校歌の作詞者、作曲者についての秘話を載せておられる。

校歌、応援歌等にはオリジナルなものもあるが、メロディーを拝借している歌がかなり見受けられる。

ちなみに、小生が小学校の運動会で歌った応援歌は物心が付いたら帝国陸軍の「歩兵の本領」と言う軍歌のメロディーの拝借であった。岩手県のある有名高校の校歌は、帝国海軍の「軍艦マーチ」だそうである。また、本荘高校の校歌は、旧制第一高等学校の寮歌「緑もぞ濃き」のメロディーをそっくり転用しているという本を読んだ。小生は「緑もぞ濃き」を歌えるから、歌詞を見ればすぐ本荘高校校歌を歌えることになる。昔、米内沢高校出の大学の同級生がいつも口ずさんでいた米高の応援歌は、一高の「筑紫の富士」が元歌だと後年気づいた。

さて、わが校の応援歌であるが、平成二年三月同窓会発行の歌集には、全曲に楽譜は付いているが、作詞、作曲者の明記は校歌と遠征歌の二曲のみである。

まず、「戦わん哉」のメロディーは、明治四十年作の旧制第四高等学校(金沢市)の寮歌「南下軍の歌」からの拝借である。但し、「戦わん哉」の方が非常に歌いやすくされている。楽譜も比較してみたがかなり異なる。しかし、抑揚はほぼ同じである。歌いやすくされた現実の「戦わん哉」に合わせて採譜したとのことである。四高出身の故平川民治氏が能中の応援歌として採り入

れたと聞いている。作詞者はだれか。

今年十月二十一日に金勇で行われた「能代寮歌を愛する会」(会長 神馬恒成)では、ゲストの四高の方に、先に元歌である「南下軍の歌」を歌って戴き、ついで我々能中、能高出が「戦わん哉」を歌って大変楽しかった。

次に、「北羽に吹ゆる」であるが、これは大正二年作の旧制第六高等学校(岡山市)の寮歌「新潮走る」のメロディーの拝借である。この歌はほとんど歌いにくくされていない。楽譜は能代の方に印が三個付いていて、原曲には付いていない。音程の高低だけの問題である。能代中学に六高出身の先生がいたものであろうか。どういふ経緯でわが校の応援歌に岡山市にあった六高の寮歌が採り入れられたものであろうか。また作詞者は誰か。

三番目に、「凱歌」天馬空征く／雄たけびに…である。結論として、このメロディーは、「高水泳部部歌」狭霧はれゆく…が元歌である。これは、小生が一高のある方の追悼寮歌祭のビデオテープを見ていて気付いた。ただし、歌詞はわが校は五行、部歌は七行である。検討するに、部歌の三、四行目は、一、二行目の反復であった。わが校の「凱歌」は、部歌の三、四行目を省いたものである。能代高の同窓会の際に、佐々木満先生に小生が報告したら「部歌の作詞者末広徹太郎は東大の大法学者だよ」と事もなげにおっしゃられ、驚いた。

平成九年五月の「能代寮歌」では、ゲストの一高OBの方二人に「高水泳部部歌」を先に歌って戴き、続いて宮腰洋逸能代市長の「母なる歌、父なる歌を聞かせて戴いた」との挨拶のあと、市長を先頭に高らかに凱歌を歌ったのであった。今年も金勇で同じく市長を先頭に歌った。しかし、水泳部部歌は水泳部らしく、

カツパ踊りを踊りながら歌うのである。どういふ経緯でわが校の凱歌となったのか甚だ奇妙に思うのである。作詞者は?

ところで、以下の二曲は小生が能高在学中教えられなかった曲、知らなかった曲である。

今年十月二十七日に能代市の平安閣で行われた「佐々木満先生を囲む会」で、野球部OBの方々が大勢壇上で満先生と共に応援歌等を歌った。一枚の歌集を戴いた。まず、「青春の歌」勝ちては君の胸に泣き／敗れて運命を恨み泣く／樽子の山に住み慣れて／涙にもろき児となりぬを聞いてびっくりした。これは旧制富山高校の「丘の團樂(まどい)」の三番であることが聞いていくとわかった。剣ヶ丘に住み慣れてを樽子の山に替えている。各地の寮歌祭で必ず歌われる名寮歌である。ついで、その壇上で「追遠歌」が歌われた。洛陽寒く黄昏て／雪や比叡にかかる時 である。平川氏が四高から能中に持ってきたとの事、手持ちの四高の寮歌集のCDを調べてみた。「剣道部優勝歌」という曲が「追遠歌」と全く同じ歌詞で歌っている。確認のために金谷晴隆先生に電話口で「追遠歌」を歌って戴いたらメロディーも全く同じであった。元歌は大正十二年の「剣道部優勝歌」を歌詞ごと拝借したものに間違いない。ただ、元歌は優勝歌なのになぜかテンポが遅く明るくない。金谷先生の歌う「追遠歌」の方が、その豊かな声量のせいかわかるく聞こえる。ある時期に「敗戦歌」としても歌われたと聞いているが、重く暗い印象を受けるので無理もない。歌詞にあることく、涙と血とで勝ち得たので、昂まる気持ちをぐーっと抑えた悲壯な優勝歌なのであろう。平川氏は四高で剣道部であったのであろうか。

以上、「能代寮歌を愛する会」の幹事をやって全国の旧制高校の寮歌に親しんでいたなら、自然に能中、能高の応援歌の元歌に行き当たった。先輩諸兄には、その他の経緯などもっと詳しく知っておられる方がたくさんおられると思う。機会があればご指示戴きたい。この文を寄稿するにあたり、統 隆(二十一期)、金谷晴隆(二十四期)両先生のお世話になりました。

同窓会会計報告

1. 経常費
収入の部
平成9年度分(平成9年9月1日より平成10年8月31日まで)

項目	9年度予算額	9年度決算額	比較増減	適用
1 繰越金	380,836	380,836	0	昨年度報告
2 人会金	1,387,200	1,387,200	0	4,800円×289名
3 会費	1,500,000	1,968,630	468,630	
4 寄付金	1,000	0	▲ 1,000	
5 その他	1,000	67,946	66,946	総会等残金・預金利息
合計	3,270,036	3,804,612	534,576	

支出の部

項目	9年度予算額	9年度決算額	比較増減	適用
1 会議費	630,000	440,025	▲ 189,975	総会・幹事会費、各支部会費等
2 慶弔費	100,000	2,887	▲ 97,113	電報
3 卒業関係費	120,000	38,850	▲ 81,150	入会記念品
4 通信印刷費	1,400,000	1,717,827	317,827	案内はがき、新聞広告
5 事務費	10,000	168	▲ 9,832	案内はがき、新聞広告
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	10,036	0	▲ 10,036	
合計	3,270,036	3,199,757	▲ 70,279	

差引残高 収入3,804,612-支出3,199,757=差引残高604,855

II. 基金

項目	平成9年度元金	平成10年度元金	適用
1 林道銀行積立	24,116,368	24,885,271	合人会金693,600(2,400円×289名)
2 郵便局	6,668,568	6,688,494	
合計	30,784,936	31,573,765	

同窓会経常費予算

(1) 収入
平成10年度分(平成10年9月1日より平成11年8月31日まで)

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	適用
1 繰越金	604,855	380,836	224,019	
2 人会金	1,392,000	1,387,200	4,800	4,800円×290名
3 会費	1,500,000	1,500,000	0	
4 寄付金	1,000	1,000	0	
5 その他	1,000	1,000	0	預金利息など
合計	3,498,855	3,270,036	228,819	

(2) 支出

項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	適用
1 会議費	630,000	630,000	0	総会等補助、各支部会費等
2 慶弔費	100,000	100,000	0	
3 卒業関係費	120,000	120,000	0	入会記念品
4 通信印刷費	1,500,000	1,400,000	100,000	案内はがき、新聞広告
5 事務費	10,000	10,000	0	
6 寄付金	1,000,000	1,000,000	0	能代高校教育振興会へ
7 予備費	138,855	10,036	128,819	
合計	3,498,855	3,270,036	228,819	

事務局だより

平成10年度総会

(平成10年10月8日 於・金勇)



挨拶する田中仁純
新会長



懇親会で挨拶する佐々木満先生



校歌斉唱

会計
監事

副会
会長
長

顧問

新役員紹介

- | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 佐藤 浩 | 大田 嗣一 | 柴田 善 | 飯坂 寛 | 山田 誠 | 島田 孝 | 工藤 良 | 柴田 茂 | 続丸 幸 | 牛丸 眞 | 伊勢 仁 | 田中 洋 | 宮腰 純 | 佐々木 逸 | 大塚 満 | 神馬 恒 |
| (30期) | (23期) | (16期) | (37期) | (35期) | (32期) | (30期) | (30期) | (24期) | (21期) | (19期) | (15期) | (25期) | (23期) | (15期) | (10期) |

会務報告(平成9年度分)

- (平成9年9月28日〜平成10年10月7日)
- ◎ 9・10・3(金) 東京同窓会総会 神馬会長他4名
 - ◎ 9・10・17(金) 秋田支部総会 神馬会長他2名
 - ◎ 9・11・19(水) 同窓会役員会 新年会の日程等
 - ◎ 9・12・20(土) 『松陵第9号』発行
 - ◎ 10・1・31(土) 新年会87名
 - ◎ 10・2・2(月) 講演会 柴田寛彦氏37期(新19期) 演題「生と死のはざま」
 - ◎ 10・2・2(月) 県庁能高会新年会 神馬会長他2名
 - ◎ 10・2・19(木) 能代高校四会役員会・監査委員会 神馬会長
 - ◎ 10・2・28(土) 同窓会入会式 飯坂誠悦副会長他2名(当番幹事第23期)
 - ◎ 10・3・2(月) 能代高校卒業式・祝賀会 花下副会長他多数
 - ◎ 10・3・26(木) 能代高校送別会 神馬恒成会長他3名
 - ◎ 10・3・27(金) 卒業生保護者に注意 呼びかけの文書
 - ◎ 10・4・7(火) 能代高校入学式・四会入会式 花下副会長
 - ◎ 10・4・20(月) 能代高校四会役員会・監査委員会 神馬会長
 - ◎ 10・5・1(金) 能代高校四会総会 神馬会長
 - ◎ 10・8・19(水) 同窓会役員会・監査委員会 総会の日程等
 - ◎ 10・9・6(日) 十里強歩大会、同窓生3名参加
 - ◎ 10・9・29(火) 総会当番幹事(28期・38期)打合せ6名
 - ◎ 10・10・2(金) 東京同窓会 牛丸副会長他4名
 - ◎ 10・10・5(月) 秋田支部総会 田中副会長他3名
 - ◎ 10・10・6(火) 県庁能高会総会 副会長他2名
 - ◎ 10・10・8(木) 能代高校同窓会総会 金勇95名